

早期臨床体験実習 I (Early Clinical Exposure I)

【責任者/担当者】

〔臨床教育統括センター〕 池内 浩基 臨床教育統括センター長
〔医学教育センター〕 鈴木 敬一郎 主任教授、蓮池 由起子 医学教育センター長、
庄司 拓仁 講師
〔兵庫医科大学教養部門〕 福島 和明 主任教授、山崎 尚 主任教授

【担当者】

〔医学教育センター〕 今西 宏安 准教授
〔医学教育学〕 柏 薫里 講師
〔臨床教育統括センター〕 平野 公通 准教授、各教員
〔兵庫医科大学教養部門〕 各教員
〔ささやま医療センター〕 片山 覚 病院長、各担当教員
〔神戸キャンパス〕 藤岡 宏幸 教授、各担当教員

【目的】

早期臨床体験実習 I (Early Clinical Exposure I) は医学部に入学したばかりの学生が実際に医療の現場を見学し、また看護や介護を体験することにより、医学生としての自覚をもち、医師への動機をつけることを目的とした臨床医学実習である。専門的な知識や手技の修得を目的としたものではなく、病を得た方の気持ちを理解し、看護師の仕事を体験し、他のコメディカル学生との交流も行う。その中から、将来医師となるべき自分が今後何をなすべきかを自覚する。疼痛に対する理解を深めることもテーマである。

【科目キーワード】

「早期臨床体験(Early Clinical Exposure)」 「チーム医療教育(Inter-professional education)」

【到達目標(アウトカム)】

- ☐ 医療の現場を体験することで、医学が社会でどのように役立っているのかを説明できる。
- ☐ 患者さんの立場を知り、それを助けている医療職のひたむきな仕事ぶりに触れる。
- ☐ チーム医療入門では神戸キャンパスの学生と協調することができる。
- ☐ 患者さんの痛みを理解し、寄り添うことができる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有している。
- ・豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守り、社会の福祉に奉仕する医師としての職責を自覚し、地域並びに母校への帰属意識を有している。
- ・患者およびその家族の人権を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、患者の権利と生命の尊厳を守ることができる。

- ・患者の痛み、苦しみ、悩みと機能障害を含め様々なハンディキャップを理解し、常に患者中心の立場に立つことができる。
- ・医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない。

【概要ならびに履修方法】

6月27日(月)～7月1日(金)は兵庫医科大学病院での病棟実習。小グループに分かれて各病棟に配属され、看護部の協力の下に看護の現場を体験する。詳しくは6月27日(月)に説明会、ならびにコミュニケーション教育を行う。実際の実習は6月28日(火)～6月29日(水)の2日間であるが(6月30日(木)は関学授業日)、6月27日(月)も身だしなみを整え大学指定のケーシー型白衣着用のこと。

9月5日(月)～7日(水)は神戸キャンパスにて4学部合同の「チーム医療入門」がある。他学部生と問題解決プログラムを行う。集合時刻、場所に注意すること。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

6月末から7月初めの兵庫医科大学病院における病棟実習では、初日のガイダンスをよく聞くこと。9月の神戸キャンパスにおける「チーム医療入門」では、前もって予習資料を配布予定。開始当日までに自己学修しておくことが求められる。

【成績の評価方法・基準】

病棟実習では、出席、各部署からの評価、実習態度、レポート、他学部からの評価などを総合的に評価する。特に患者さん、医療スタッフからのコメントは重視する。

レポートなどの提出方法については追って指示する。レポートは自分自身で作成し、オリジナルな内容を記載すること。他者のレポートや他の文献、ホームページからの盗用、剽窃は最も恥ずべき行為であり、不合格とする。盗用検索ソフトでチェックする予定である。

実習であるので出勤が原則である。止むを得ない事情以外による欠席や遅刻、態度不良や積極性がみられない場合は不合格とし、程度に応じて点数をつける(44点以下とする場合もある)。たとえ止むを得ない事情があっても遅刻・欠席する場合も、可能な限り事前に連絡する努力をしたかどうか問われる。事後の報告は評価されないと心得ること。

患者さん、医療スタッフ、職員などとのトラブルは厳禁。内容に応じて不合格だけでなく、停学、退学など厳しい懲戒処分の対象となる。患者さんの個人情報にも留意すること。個人情報の漏洩やSNSなどへの発信は不合格だけでなく懲戒処分の対象となる。

【学生への助言】

配属される施設、部署によって実習内容や評価基準が異なるのは当然である。真摯な態度で積極的に参加すれば不合格になるはずはない。実習目的の無理解、止むを得ない理由のない欠席・遅刻、服装の乱れ、態度不良、居眠り、積極性欠如などは当然不合格である。自信のない

者は進級にかかる教育的配慮を受けられるように、他の科目・カリキュラムにすべて合格すること。

【フィードバック方針】

実習やグループ学習による総括的評価なので基本的にフィードバックはしない。

【オフィスアワー】

講義形式ではないので、オフィスアワーは設定していない。

【受講のルール、注意事項、その他】

本科目は医師となる資質を涵養し、その成長を評価するための科目である（Fitness to Practice）。この科目外であっても医学生に相応しくない行動、態度があると思われた場合は、教務委員会等における審議を経て、受講不可もしくは不合格とする場合がある。

健康診断や予防接種の期限までの未受診、遅刻の場合は実習に参加できない。時間やルールを厳守することは医療者にとって最低限のことである。その教育的効果を鑑みて厳格に適用する。止むを得ない事情で追実習になった場合も、全体の正規の発表会にも出席し、情報や体験を共有すること。加えて追実習の発表会で発表を行うこと。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行状況によってはオンラインで運営することがあり、その場合は追って通知する。新型コロナウイルスの予防接種については、追って指示するのでそれに従うこと。遵守できない場合は実習に参加できない。

身だしなみについて

学生は、患者さんを診察するのに相応しい服装、髪型、履物を身につける。判断の基準は、患者さんの立場にたって、不審、不快でないと思われること。不適切な学生は参加させない。

〈白衣（ケーシー）、名札〉

- ・こまめに洗濯し、交換すること。しわ、汚れやしみのあるもの、破れたものは着用しない。
- ・ずり落ちたズボンなどサイズの合わないものは着用しない。裾上げ等を必ず事前に行うこと。
- ・半袖ケーシーの襟や袖からアンダーシャツ、長袖を出さない。厚手の下着等で調節すること。
- ・肌、下着、Tシャツ等の柄などが白衣やケーシーから透けてはならない。
- ・名札は必ず着用し、胸の位置につける。首からかけるタイプは不可。

〈履物〉

- ・白色の運動靴、上履きを着用（サンダル、スリッパ、下駄、合成樹脂性の履物は不可）。
- ・靴下は必ず着用し、白色を原則とする。くるぶしが十分隠れるものを着用すること。

〈頭髪〉

- ・感染予防の観点から白衣に付着させない。
- ・寝癖や乱れを整える。
- ・茶髪の染髪、染髪を隠す黒彩は不可。
- ・女子で白衣にかかる場合は髪をまとめ、ポニーテールではなくお団子にすること。まとまりにくい場合はヘアピンやネット等を使用し、髪が飛び出さないようにする。
- ・男子は髪が襟にかからないこと。(後ろでまとめるのは禁止)
- ・男女とも長い前髪は不可。

〈その他禁止事項〉

- ・ペインティングした爪
- ・アクセサリー、過度の化粧や香水
- ・カラーコンタクト
- ・刺青、タトゥー
- ・すべての種類のひげ、長いもみあげ
- ・喫煙
- ・白衣での外出など

〈マスクについて〉

- ・マスクは原則として大学配布のマスク、もしくは白色で一定の性能を有するマスク(不織布製)を着用すること。

【教科書】

配布された予習資料を自己学修する。

【参考書】

特になし

【連絡先】

教学課